

令和2年度 高知市食育推進会議 議事録

日時：令和3年2月16日（火）18：30～19：30

場所：総合あんしんセンター3階 中会議室

1 開会（司会：健康増進課 課長補佐）

2 自己紹介

司会より紹介

3 会長・副会長の選出

会 長：高知学園大学 健康科学部管理栄養学科 学科長 渡邊慶子 委員

副会長：高知県栄養士会 会長 新谷美智 委員

4 議事

①令和2年度の取組状況について

資料1を用いて事務局が説明

【質疑応答】

〈西森委員〉

「新しい給食時間の過ごし方に関する学習動画の作成」と、「カモリンピック」について説明をしてくださいでしたが、学校では実際、給食を盛り付けて配ってそれから食べる、そういう時、やはり前を向いて食べるのか、そんなことがあるのではないかと思います、どういう工夫をされて、それによってどんな問題があったりしますか。

〈教育環境支援課〉

新しい生活様式に関する学習動画では、無言で食べる、前を向いて席も一人ずつ離れた状態で食べるというように紹介をしています。多くの学校が、食べる直前までマスクを着けて、食べる時だけはずして、食べ終わったらすぐに着けるといった形をとっていると思います。

問題点としては、食べることはやはり楽しくあってほしいので、あまりしゃべりすぎてもいけません、一緒に食べる楽しさとか美味しさを共有しながら食べるということを今までやってきたと思います。しかしそこに関しては、一人ずつの席になって、無言で食べるということを学校では本当に徹底しており、学校に入らせていただくこともあります、どこの学校も本当に静かに、食器の音しかしないような状態で食べています。やはりそういう意味では、楽しく食べる、コミュニケーションといったところは、今では少しなくなってきているかなというように思います。

〈金井委員〉

本校でも、コロナに対応した給食の配膳の仕方や食べ方などを、従来とは大きく変えて、以前は一人一人が自分のお盆を持って、配膳をしてもらって席に戻って食べるような形になっていましたが、現在は、まず全員が手洗いをするのは当然ですが、配膳係はそれに加えて、アルコールで消毒をしたうえで、配膳係がすべて、お盆を持って配って行くという方法に変えています。その間、他の児童は座って待っています。もちろん手洗いが一番大事になるので、秦小学校では以前から、子どもが作った手洗いの歌がありまして、それを給食の時には流し、それに加えて、パンの日には養護教諭が「今日はパンですのでいつも以上に丁寧に手を洗ってください」という放送を流しています。

コロナの初期の段階では子どもが罹患するというのはあまりなかったもので、割合、前半はそれでも緩めにやっていたのですが、ここに来てずいぶん小学生や未就学の子も陽性になってき始めましたので、より一段

と給食時の無言というのは厳しくしています。そんな中、先週、6年生がしゃべっているというようなことで、急遽学年集会を開き、こうやって全校で取り組んでいるのに、最上級生でもうすぐ中学生になろうとする6年生がいかげなものかということで投げかけをしたところです。

あと、楽しさについては栄養教諭がずいぶんと工夫して、給食の食材や時期のものについて、クイズを作ってそれを給食の見本のところに置き、子どもたちが興味を持つようにしたり、また授業の一環で、栽培をしたものの食材を給食に使ってもらったり、贈呈式にて紹介したりというようなことで、残食率もほぼ下がらず、むしろ若干減少気味になっているというふうに聞いていますので、今のところ、楽しくない給食ということにはなっていないのかなというふうには思っています。

②意見交換～「新しい生活様式」を踏まえた食育推進のあり方について～

【主な意見の要約】

〈渡邊会長〉

今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、人々の生活が本当に一変しています。生活スタイルが変わって、食に関しても多方面で、様々な影響が起こっていることと思います。

コロナ以前から、家庭生活の状況が多様化する中で、その多様性に配慮した食育の推進が必要であると、高知市の第3次計画の中でも言うておりましたけれども、計画書の6ページですね、コロナ以前から元々あったこういう課題が、コロナが起こったことによって、より浮き彫りになったのではないかと思います。

これまでどおりの食育ではなく、いわゆる「新しい生活様式」を踏まえた食育の推進について、新たに必要な視点や課題、または、もうすでに取り組まれていることなどがございましたら、皆様と共有できればと思います。

それぞれのお立場からご意見をお聞きしたいと思いますが、できましたらお一人ずつ順番でご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。私の方から右回りで、よろしいでしょうか。

〈長野委員〉

私は確か、第2次の高知市食育推進計画策定の時の委員だったと思いますが、それからちょっと空白があってまた戻ってまいりました。食育推進に関するいろんな取組や活動をずっとやられてきて、市役所の職員さんも大変だろうというふうに思いますし、またコロナで生活スタイルが変わったと言われております。

食育ですから「食して育つ」と、単純に漢字を崩せばそういうことになると思いますが、私はずっと前から、子どもさんが食を通じて健康に育ててもらえたらというのが第一前提だと思っています。また以前から言われている「孤食」、個々に食べるとか、特に孤独で食べる、これが全国的にも大問題になっているのではないのでしょうか。今コロナの関係でスタイルが変わったと言いましたが、外食が減り、家庭で食べる機会が多くなってきたということであれば、若干、孤食というのが減ってきたかなと。どうしてもここを改善しないと、小さな子どもが一人で食べるのは、美味しく食べていないと思うんですよね。美味しく食べないと、栄養が行きつかないというふうにも思います。どうやって孤食をなくしていくかというのが非常に、私自身は大きな、重要なテーマじゃないかなというふうに思っています。第3次計画でも、そういったところを改善すると書いてあるかもしれませんが、こういった推進会議の中でそれをどうしていくかというのを煮詰めていってもらったらいいかなと。また今、行政の中でやられていることがあれば、おっしゃっていただければいいかなというふうに思います。

〈田村委員〉

まず、弊社の現在の取組をお伝えしたいと思います。医食同源をテーマに展開させていただいてまして、従来、毎月19日の食育の日を中心に、高知の旬の食材でバランスのいい食事を提案してまいりました。それは継続しておりまして、今週も20日に新聞折込みチラシがあります。現在、力を入れて取り組んでいます減塩のメニューを提案してまいります。

これまでは、親子料理教室や田植え稲刈り体験にお客様を招いてイベントを開催したり、食品メーカーにお客様を連れて行ったりなどの食育活動を中心にやってまいりましたが、昨年からは田植え稲刈り体験や工場

見学，親子料理教室，すべて中止にさせていただいております。

毎月 19 日前後の食育の取組についても，ご来店いただいたお客様に試食をしていただいて，レシピを渡して啓発活動をやってまいりましたが，やはり試食がなかなか出来ないということで，今はクックパッド，レシピアプリですね，このQRコードをチラシに掲載させていただいて，手で渡すというより，お客様自身にQRコードでそのレシピサイトに行っていただいて，レシピを見ていただく，ダウンロードしていただくということに切り替えております。

本日 14:00 から開催された農林水産省の食育フォーラムを見ましたら，ユーチューブを使った料理教室といった提案もあったので，料理教室については，そういう角度で開催してもいいのかなと思っておりまして，そこを今は検討しているような段階です。

<吉本委員>

私も夜の席が少なくなりまして，家庭で食べる機会が増えました。食育，「えらぶ」とか「はぐくむ」とか「つなぐ」とかありますけど，やはり食育のターゲットは，一番は未来ある子どもたちなのかなと。その次のターゲットは，より多くの食事を作る家庭にあるのかなと思っております。

小学校のPTAも歴任させていただいた経緯もありまして，学校での給食説明会など，そういった所に赴くこともありますが，非常に，すごくいいなと思っております。ただし今，コロナで集まれない状況でありますので，こういった時にこそ，先ほどデジタル，ユーチューブ，そういったものを活用してというような話もありましたけど，学校の一つの取組として，各家庭で子どもと親と一緒に学べる場があれば非常にいいのかなと思っています。子どもが学校で教わってきたことを私が指摘されるようなことで思いが変わることもありますので，そういったやり方を含めて，小学校や中学校において，何もかも無くすのではなくて，リモートを使ってでも，食事の大切さというものを親子で学べる機会が多くなればいいかなと思っております。

<高橋委員>

口腔内の細菌や鼻粘膜の細菌等が多いと，やはりウイルスの感染が広がっていきます。全国的にも歯科医院において感染が出たというのは全然ないんですが，一時，ウイルスの感染が広がった時に，歯科の受診が多少減ったんですけど，また少し戻ってきている状況だろうと思います。

歯科医師会としての啓蒙活動として，歯っぴいスマイルフェアというのを毎年やっていますが，残念ながらウイルス感染の影響で中止になってしまいました。今年はどういう形になるかわからないですが，続けて啓蒙していければいいかなというふうに思っています。直接，食育とは関係ないんですけど，そんなところではないかなと思います。

<森本委員>

コロナになって一番困ったことは，保育園で今までやってきた当番活動ができていない状態であることです。保育園の子どもたちには，やはり無言ということがなかなか難しいです。今までは子どもたちがすごく子どもを見て，食べる量なんか子どもたちがしっかり把握しながら，「誰やろちゃんはいくらしか食べれんき，これくらいでいいよね」といった会話もなくなり，今は保育士が全部子どもたちの配膳をしています。子どもたちがしっかり子どもたちを見てやっていた当番活動ができなくなったことが一番，残念ですけど，これからまた，できる体験はしっかり取り入れてやっていきたいなと思います。

その他，栽培活動について，うちの園では野菜の栽培，夏野菜や芋・大根なども植えて，季節折々の野菜を育てて，子どもたちと一緒に数しらべをしながら，いろんなことをやっていますが，やはりそれも周りを見ながら，「みんなちょっと離れて野菜取ってね」と言いながら，できる活動を，それぞれの園が考えながらやっています。

それとあとは，手洗いをしっかりして，できることをしっかりやるということです。小学校の校長先生も言われていましたように，やはり当たり前のことの手洗いをしっかりして，歌に合わせてやるっていうことを今，どこの保育園もやっていると思います。みんな，それぞれできることを工夫しながら，それぞれの園が取り組んでいるところです。

〈金井委員〉

昨年度末から臨時休校になり、春休みをはさんで入学式・始業式から3日で再度、臨時休校に入りました。そこから約2か月、休校になりましたので、その間、居場所づくりで学校に来ていた子どももおりますが、かなりの児童が家庭でずっと過ごしているという時期があり、スーパーで子どもを見かけたというような連絡が学校にあったりして、指導もしたこともあります。

再開後はまず、生活リズムを元に戻すという所から取り組みました。学校の方針として、工夫のできるのであれば児童の活動・学習は可能な限り、制限をかけつつも実施をします。一番大きく制限をかけるのは、保護者に学校に来てもらうこと、いろんな行事については、今年は我慢していただくということで、子どもに無理が掛からないような内容で学校を運営しています。

そのような中で、栽培活動では、例えば大根を作ったりさつま芋を作ったりしたら、従来であれば学校で調理実習もありましたが、家庭に持って帰ってもらって、家族でどういうふうに食べて、その感想をまた返してもらい、それを学年だよりや学級だよりで紹介していくという方法で、少しでも効果が上がるようなことでやっています。

あと、一番感染リスクが高いのが給食の時間です。飛沫になるので、濃厚接触者になる大きな基準が、15分以上マスクをはずした状態での会話ということもありますので、とにかく給食の時はしゃべらないような状態でいこうと、そうであれば、たとえ感染をしても周りを巻き込んで休校になったりすることはないので、自分を守ると同時に、周りも守ろうということで、各学年・学級で取り組んでいます。

いろんな活動の中で、子どもが少しずつ自分たちで案を出し始めたので、来年度に向けては、あらかじめコロナの対策というのはもうありますので、前へできることを、もう少し広げていければなというふうに考えています。

〈和田委員〉

私は高知商業の方で家庭科の方を担当しておりますが、今年はいったん状況でしたので、やはり調理実習ができないということで大変苦勞をしました。生徒の方はとても残念がっていましたが、従来、家庭科の方で取り組んでいた内容のレシピを配って説明をし、それをお家でやってもらう、あとはそれこそ長期休校になってしまった時期には課題を出して、お家で作ったものの写真を添えて、再開後にレポートを提出するという形など、いろいろ試行錯誤をして、生徒と一緒になんとかやってきました。ただ、実習ができなかった分、普段、あまり時間を裂けなかった食料自給率であるとか食品ロスの問題であるとか、細かいところまで講義の授業は進んだという、今までになかったこともできました。

来年以降は、他校の実践例などもお聞きして、一クラスを半分に分けて1時間ずつの実習であるとか、傷まないもので帰れるものの試食をしない形の実習、あと実習にこだわらず調理実験とか、取り組める範囲で、やはり家庭科という教科は実技があつての教科だと思っていますので、そういう形で生徒たちへのアプローチを考えていこうと思っています。

〈古谷委員〉

みなさんからのご報告にもあつたように、今年度はやはり地域の活動というのは中止を余儀なくされるなど、非常に厳しい状況でありました。当初、春野の住民さんが、小学校で給食時にマスクをはずさなければいけないけど、そのマスクの置き場に困っているというお話を聞かれて、住民活動として春野の方で小学校にマスクケースを寄贈したというような活動がありました。

また、この会では私どもの方からは子ども食堂について、ご報告をさせていただいていますが、昨年度末に開始を予定されていた社会福祉法人さんなど、軒並み中止をされるという状況になっております。元々、地域で子ども食堂をされていた方も、場所が使えなくなって休止を余儀なくされるなど、どこも非常に厳しい状況が続いておまして、今年度に地域で立ち上がった子ども食堂は5か所しかございません。ただ子ども食堂さんの方でも、できることをということで、食糧支援に切り替えて行っている食堂もたくさんありまして、鴨田の方の子ども食堂では、支援が必要なご家庭にスクールソーシャルワーカーさんや保健師さんたちがお伺いする時に、なかなか重い扉を開けてくれなかったご家庭が、食を持って行くということで重い扉を開けてくれたという事例がございました。この事例を通して、やはり食の重要さというか、重い扉を開け

てしまうだけの力が食にはやっぱりあるんだなということを、みなさん実感しております。

〈濱渦委員〉

コロナにより、私たちのほとんどの活動が中止の状態になっています。全国組織の方からも料理講習はしないということで言われています。市の方からも実習はしないということで、この1年間ずっと実習なしで啓発だけという形でやってきました。その中で資料にもありますように、県立大学の方では、じゃが芋とマヨネーズを持って行って、学生たちに食の大切さを伝えさせていただき、お家に帰って自分で作ってもらうという形でやりましたが、一人暮らしの学生が多いので、すぐに料理ができるのでよかったということで、大変喜ばれました。なかなかバランスのよい食事をするというのが学生は難しいということですが、自分たちの伝えたいことが伝わったかなという気がします。

また、小学校ではおやこの食育教室というのをしていますが、これもまたできないということで、テキストとパンダナを配布して、お家に帰ってお母さんと一緒にやってねということでやらせていただきましたが、やはり子どもたちからは料理がしたかったという声があります。毎年こういうことをやっている中で、今年ではできないというのがすごく残念で、子どもたちの方からもそういう声が聞こえました。来年はどういう形になるかわからないけど、コロナが続く限りなかなか実施は難しいかなと思いますが、私たちはボランティアですので、自分たちができることを少しずつ伝えていくということが大切なのではないかと思います。市の方では減塩に取り組むということが言われておりますので、私たちも今年は減塩について、どういうふうに市民の方に伝えていって浸透させていけるかなということが課題の一つだと考えております。そういうことで、本当に少しではありますが、活動し、みなさんに健康で生活していただけるような手助けができればなと思っています。

〈西森委員〉

私たちはNPOですので、コロナが蔓延して、なかなか活動ができなくなってしまいました。今年度はしょっぱなからできなくなりまして、一体どうやって活動しようかと考えました。今まで、地域の住民さんたちを相手に、特に高齢者のミニデイをしているグループや、百歳体操をしていらっしゃる高齢者のグループの所に行きまして、食の大切さやどういうふうに食事をとったら健康長寿でいられるのかということをお話して、本来は料理をします。リハビリキッチンということで、みんながそれぞれの役目を持って、それぞれ料理を作って、そして楽しんで集いをして、家にも持って帰って、普段の食事もしっかりバランスよく食べましょうというのが本来の活動でした。

しかし、料理ができない状態になりましたので、今年はいつも行かせていただいている所でアンケートを取らせていただきました。どういう風に過ごしていますか、どういう食事をしていますかなど、何でも書いてくださいというようなアンケートです。高齢者の方たちなので、孤食なんですよ、みんな。独居の女性が多いですが、その中で意外にも、一人だからこそ元気でいれないといけないということで、今まで言った話や、今までやった料理なんかも考えながら、しっかり食べているというような答えが返ってきまして、ちょっと安心をしました。9月くらいから感染が少し収まってきたので、ミニデイや百歳体操をしている現場に、それまでは全然行くこともできなかったんですけど、料理はできないけど行くことはでき始めたので、私たちNPOで食の啓発をしていくということで、お話もさせていただきました。元気でいれないといけない、子どもたちや孫たちの負担になったらいけないのと、嬉しいような声がありました。

今年アンケートをしたことで、問題点なども浮かび上がってきましたので、それをまとめまして、またこれからどういうふうに活動していくかという計画を立てていくところです。コロナしだいということで、みなさま大変なんですけど、私たちもボランティア団体・NPOでなかなか難しいところですが、できることをやっていくということで、これからも活動していきたいと思っています。

〈三谷委員〉

飲食業界は大変で、業界のことが出なかったのも、そういう観点からお話をさせていただきたいと思いません。今私が一番心配しているのは、食文化の継承という問題です。食文化と言いましても、郷土料理や伝統食は、個々にはコロナが収まればつなげていく方法はあると思いますが、日本全国でも類を見ないほどの、

本当に素晴らしい高知の「おきゃく文化」というのは、今は本当に食文化の大きな変革期というか、高知県においての常識は、完全に非常識になるのではないかと思います。この状況が、コロナがいつ収まるのかわかりませんが、その間に、強制的に高知県民は、行儀よくさせられるのではないかと、小学校の話聞いていても、黙って食べなさいというのがいつまで続くのかというのが一番、本当に心配するところです。したがって、やっちゃいけないこと全てが入っている「おきゃく文化」というのをどうやってつなげていくか、特に皿鉢料理というのは教育の現場で、高知市は小学校でやってくださったんですけど、結局絵に描いた餅で、つながらないということになると、すごい大きな損失です。これがおそらく2～3年、ワクチンができたとしても戻らないかもしれない。そうすると、完全に廃れていくかもしれない。これを一番危惧しています。個々のお店では、皿鉢の提供にしてもいろいろ工夫を加えて、試行錯誤で現場はやっております。うちの学校もちろん、途絶えさせないように努力はしますが、答えが見えないです。だから言い続けるしかない。濱渦さん、よろしくお願いします。本当にやり続けるしかないかなと思って、やり続ける価値がある食文化だと思っておりますので、頑張ります。よろしくお願いします。

〈新谷副会長〉

私たち高知県栄養士会の方でも、こういった食育活動は栄養ケアステーションを中心に事業を展開してまいりましたが、みなさま方と同じようにコロナ禍の状況で事業が中止となっております。実施した事業もありますが、人数を制限して、ソーシャルディスタンスを取ってという形です。

栄養士会ですが、新しい生活様式に対応したIT活用が進んでいません。コロナが収束したとしても、オンライン化やウェブ会議というのはなくならないと思います。交通費もかからないし、行かなくても済むということで、その点についてはコロナ禍の中で良くなったかと。これからはオンラインというところを中心に考えていかなければならないと思っています。

食育に関して、高知県栄養士会のホームページに、レシピ紹介のコーナーがあります。今年は感染症に負けない予防めしということで、料理を紹介しております。ホームページ上で少しでもお役に立てるように、レシピ紹介を行っていくとか、全体的にはオンラインを活用してみなさま方に発信できるようにしていきたいと思っています。今年度は事業もあまりできていませんが、2021年度に向けての事業の展開を模索しているところです。

〈渡邊会長〉

ありがとうございました。もう時間が過ぎましたが、私の大学の方では学外実習が全面中止になりました。学内で行ったということで、なかなか質の向上とか担保できなかったというところがあります。私としては、このコロナ禍の一年を過ぎまして、失うものもありましたが、得るものもかなりあったというふうに思っています。落ち着いたらちょっと考えて、というふうに、先ほどの三谷委員さんがおっしゃった伝統食の継承など、改めてまた見直す機会にもなったかと思えます。これからも、改めて考えていきたいというふうに思っています。

みなさん、たくさんのご意見をありがとうございました。時間になりましたので、議事を終了させていただきます。

5 事務連絡

食育応援ネットワーク「こうちし食育やるぞねっと」について

資料2を用いて事務局が説明

6 閉会